

平成28年度第2回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 平成28年5月31日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 京都市立病院 本館5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介
理 事 森 一樹，黒田 啓史，桑原 安江，大森 憲，位高 光司，山本 壯太，
能見 伸八郎，木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男，中島 俊則
事務局 阿部経営企画局次長，長谷川担当部長，大島市立病院事務局担当副部長，
高橋経営企画課長，竹内職員担当課長，澤井管理担当課長
北川京北病院事務長

1 開会

2 報告等

(1) 平成27年度 京都市立病院機構決算（案）について

資料1に基づき阿部経営企画局次長から説明

- 収益では，市立病院，京北病院とも増加しているが，支出では，材料費が市立病院で増加している一方，京北では減少している。何故か。
 - 市立病院の収益及び支出の増加の主な理由は，化学療法や手術件数などの増加により，高額な薬や手術材料を使うものが増えたことによるものである。一方，京北病院では，収益増は，外来収益のうち，訪問診療の伸びが大きな要因であり，材料など大きな支出を伴うものではない。なお，手術については，行っていない。
- 法人として増収減益だが，キャッシュフローに問題はないか。
 - 問題ないと考えている。
- 26年度も臨時損失を計上していたが，一過性のものか。
 - 27年度の臨時損失は，日銀のマイナス金利政策の影響により，退職給付債務の差異を埋めるためのものである。26年度の臨時損失は，旧北館の解体撤去費用によるものであり，継続した課題ではない。
- 京北病院は数年赤字が続いているが，今後の展開をどのように考えているのか。地域医療としてある程度の赤字は仕方がないと捉えられているか，それとも単年度での黒字化を考えられているのか。黒字化するためには，給与費を下げるか，収益を上げることが必要であるがいかがか。
 - 単年度での黒字化を目指している。

資料1別紙に基づき森本理事長から説明

- どのように救急車入院患者を増やすつもりか。
 - 救急の応需率を高めていくことが必要である。また，高齢の患者で一人暮らしの方の場合など，患者さんの生活・万一のことも考えて観察入院を勧めていくことが必要だ。
- 救急車の応需率は，どのようにして高めていくのか。
 - 夜間については，研修医を含め10人の当直医体制をとっており，他病院と比しても強みである。非番の医師についてもオンコール体制をとっているが，現状十分ではないので，7月以降，体制整備を行っていく。
- 健診の稼働状況はどうか。営業はかけているか。

- 昨年度の利用件数は、過去最高を記録した。4・5月は、企業の人事異動等の影響で受診される方が減るため、当病院では、4・5月の受診に対しては、ペア割引など割引制度も設けている。
- 病院も経営者協会に加盟してはどうか。総会や賀詞交歓会でPRを行えるようになる。
- 京北病院の収益強化策として、訪問診療の件数を増やすとのことだが、金額をみると大した割合ではないが、どうとらえているか。
 - 28年度の診療報酬改定においては、報酬が大きくプラスされており、強化に努めていく予定である。効果額として、1千数百万円ほどになると考えている。
- 看取りについては、しっかりと地元、患者、ご家族の意を汲み取って対応してほしい。

(2) 経営状況月次報告

資料2に基づき阿部経営企画局次長から説明

- 市立病院の4月の診療報酬単価、手術件数がともに下がっているのは、医師の異動等により、対応できなかったためか。500床以上の病院については、今回の診療報酬改定でプラスに働くと言われているが、実際はどうか。また、大病院は4月から初診料に5,000円かかるようになったが、影響は出ているか。
 - 今年度については、主要ポストの退職や異動はなかった。収益が落ちた理由としては、季節的な変動もあって、急患、重症患者が減ったことによる。
 - 診療報酬の改定は、プラスに働いている実感はない。初診料がかかるようになってからは、外来患者の総数が減少傾向で、そのことが紹介率上昇の要因にもなっている。
- 巡回バスは順調に稼働しているか。
 - 平均50名程度/日が利用しており、多いときには70名程利用いただいている。街中での広告宣伝の効果も一定程度はあると考えている。

(3) ゴールデンウィークの開院実績について

資料3に基づき阿部経営企画局次長から説明。

- 5月3日(火)の化学療法治療は14ベッドがフル稼働した。大型連休の中でも、曜日により、患者数に大きな違いが出るのが分かったので、次回以降は、より一層患者ニーズを吸い上げて日程を設定してまいりたい。

3 閉会